

(国語科)

『なぜ?』『なるほど!』自己の考えを広げ、深める国語科学習
～『課題設定・学び合い・振り返り』を充実させた授業づくりを通して～

大阪市立田川小学校 研究部

1. 研究主題設定の理由

本校では、教育目標「豊かな心をもち、知・徳・体をバランスよく身につけた粘り強く取り組める子どもの育成」をめざし、日々の教育実践に取り組んでいる。

昨年度は研究主題を「『わかる!』『できる!』自己の考えを広げ、深める国語科学習～「対話」活動を通した物語文を「自力読み」する力の育成～」とし、物語文の学習を通して、「確かな読みの力」「理由や根拠を明らかに話す力」「比較・判断し考えを練り合う力」「のびのび自己表現できる力」を身につけられるようにした。一年間の取り組みで根拠を明らかにする読みの力が少しずつ身についた。また、授業の中で自分の考えを発信し、友だちの意見との相違点、共通点を考えながら聞く力も身についてきた。

今年度は、研究主題を「『なぜ?』『なるほど!』自己の考えを広げ、深める国語科学習～『課題設定・学び合い・振り返り』を充実させた授業づくりを通して～」と設定し、昨年度の視点をもとに新たな四つの視点から研究を進め、「根拠を明らかに自分の考えを広げ、自分の言葉や知識を用いて表現できる力」「考えを練りあう『対話』活動ができる力」「学習を振り返り、自己の変容を自覚できる力」を育成できる研究を進めていくこととした。子どもたちが主体的に学び合う授業づくりを研究することで、互いのよさを認め合い、学びの喜びをみんなで味わえる学習集団づくりにつなげ、教員の指導力向上をめざした。

2. 研究の趣旨

本校の児童は、自分の意見や考えをもっていても発言して友達に伝えようとする意欲が低く、授業の中で話し合う活動を取り入れても、発言する児童が決まっていたり、形式的な話し合いしかできなかったり、有意義な「対話」活動を行うことが難しかった。また、自分と違う考えを受け入れられずにトラブルになることもあった。自分の気持ちを優先して物事を考えることが多いため、なぜそのように考えたのか理由を探ることはできずにいた。そこで、根拠をもとに自分の考えを述べる力を伸ばしたい、そして学校生活の中で話し合うことの面白さや伝え合うことの楽しさを知ってほしいと考えた。友達との交流を通して自分の考えや意見が広がったり、深まったりすることを感じさせ、互いのよさを認め合い学び合える集団を育てたいと国語科の研究に取り組むこととした。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 子どもの問いから課題設定をする

文章を読む際に、初発の感想だけではなく「なぜだろう」「もっと知りたい」「もっと深く考えたい」と思ったことや知りたいことを「問い」としてもたせ、分類する。

子どもの「問い」から課題を設定し、解決するために叙述をもとに想像したり考えたりしていく。

視点② 根拠を明らかにし、分析的に読む力を育てる

- 登場人物・時・場をとらえる
- 多様な表現を学び、人物の心情や場面描写をとらえる
- 物語の山場を中心に、物語を場面ごとに分けて全体構成を考える
- 物語を進めている人物をとらえる
- 短い文章でまとめることで、物語を再構成し、重要なできごとをとらえる
- 作品が最も強くうたえていることと読者である自分自身の考えを関連させる

考えの根拠を明らかにした読み → 叙述に立ち返る

★分析的な読みの力

- ・目的に合わせて読む力
- ・必要な情報を的確に取り出す力
- ・取り出した情報の要点をつなぎ、文章を書く力
- ・質問の意図を捉える力

視点③ 対話活動を中心に有意義な学び合いを行う

自分の考えを他者に話したり、他者の考えを聞いたりすることによっていろいろな見方や感じ方に触れ、自分の読みを深める。子ども一人ひとりが叙述をもとに読み取ったり感じたりしたことをペアやグループ全体で交流させ、学び合いを通して読みを深めていく。

★「対話」活動

〈おおよその流れ〉

- ①話題の把握（話し合う話題を確認する）
- ②心内対話（1人読み。話題にもとづき、自分の考えをつくる。ノートにまとめる。）
- ③ペア対話
- ④グループ交流
- ⑤全体交流

学び合いを充実させるためには、子どもに疑問や葛藤、目的意識を持たせることが重要である。
⇒子どもの中に疑問や葛藤が起こったとき「みんなはどう考えるのだろう」「友だちの意見を聞いてみたい」という気持ちが生まれ、主体的に読みや考えを交流すると考えられる。

○発問や声掛けの工夫

○子どもの意見をつなぎ、広げ、深める手立て

視点④ 自らの学びの変容を自覚できる振り返りを行う

「対話」活動を通して、友だちの意見を聞くことで自分の考えが広がったり、深まったりすることが分かるまとめの時間を確保する。学び合う楽しさを実感することができるようにする。

★振り返りのポイント

- ・振り返りの目的を子どもたちに伝える
- ・振り返りの時間をしっかり確保し、習慣化する
- ・課題とまとめのつながりを意識する
- ・板書・ノートの工夫
- ・味わって音読する

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ・初発の感想をクラス全体で共有し、児童の疑問から学習課題を立て、授業づくりをすることで学習意欲を高めることができた。
- ・学年の実態に合わせた教具を工夫して使用することで、ペア対話やグループ交流が活発になり、伝え合うだけの形式的な話し合いではなくなった。
- ・叙述をもとに考えるために音読や動作化を取り入れることは、特に低学年の児童にとって効果的で、主体的に登場人物の気持ちを考えることができた。
- ・考えを発表する際に、理由とともに「どこに書かれていたのか」「どの部分をもとに考えたのか」を述べさせることで、叙述にもとづいて読みを進める姿勢が育った。
- ・継続して視写に取り組んだことで、「書く」ことに対する苦手意識がなくなり、多くの児童が自分の考えを整理してノートに書くことができるようになった。
- ・視写した文を読み解くことで他の場面とのつながりを意識しながら、中心人物の気持ちの変容を考えることができるようになった。

(2) 今後の課題

- ・児童の感想や疑問から学習課題を立てる際には、十分な教材研究をもとに教師が意図をもって計画を立て、導くことが必要である。
- ・友だちの考えを聞いて自分の考えと比べる際に、どちらがよいかということではなく、自分の考えを深めたり、広げたりする機会となるように発展させていく。
- ・叙述をもとに考えさせる際は、児童の考えを練り上げ深める学び合いができるよう、発問や補助発問を精選し工夫していかなければならない。
- ・ペア対話やグループ交流では自分の考えを伝えることができても、挙手して全体交流の場で発表できる児童は少ない。より活発に交流できるように今後も意図的に発表する場を設定するなどの工夫が必要である。
- ・指導者が一方的にまとめを行うのではなく、児童がペア対話やグループ交流で自分の考えたことや学習の成果を伝え合い共有した上で、児童の言葉を使ってまとめていく必要がある。
- ・単元の始めと終わり、授業の始めと終わりなどで自分の考えが広まったり、深まったりして変化したことに気づくまとめが行えるようにしていかなければならない。まずは友だちのよい意見を見つけて書いていくことが、自分の学びの変容につながるのではないかと考える。